

令和元年度「維孝館学園」クリエイト会議 第1回地域・広報部会まとめ

1. 日 時 令和元年6月24日(月) 19時30分～21時05分

2. 場 所 宇治田原町総合文化センター 研修室2

3. 出席者 柘植部会長 外 委員7名 事務局3名 計11名

4. 内容等

①自己紹介

各委員、事務局が小中一貫に対する思いを踏まえて自己紹介

②平成30年度 小中一貫教育説明会における質疑・意見等について
地域・広報部会に関する部分について説明

③意見交流

○宇治田原の中での学校というのはどういう位置づけなのか

- ・宇治田原では名前を言えばわかってくれる先生が多く、それは子どもにとって財産ではないかと思う。
- ・宇治田原は地元愛がすごい。だから出身の奥山田小学校が無くなったのはすごく寂しい。みんな思い入れがあり、その頃にもどれる場所である。
- ・一体型等になって集約された時には、奥山田の歴史が語れるような部屋、継承してあるような記念室みたいな歴史的なものが、地元の人も保護者も卒業生も安堵感というか抛り所ができるのではと思います。

○どういう広報をすればいいか

- ・施設一体型にするのも、主人公は子どもたちだと思うので、子どもを介した広報をしてはどうかと思う。
- ・(説明会での意見に) 子どもの意見を聞いてあげて欲しいとの要望もあり、子どもを介した広報、子どもの意見を聞きながらそこで確認していく作業もいいのかもわからない。
- ・岩手県釜石市の防災訓練は、子どもにアンケートを取り、保護者に結果を見せることで参加者が増えたことから、子ども目線、子供のことを中心に考えるとわかりやすいと思う。
- ・広報としては足りないが、各校ホームページに維孝館学園というところがあり、そ

れをクリックしてもらおうと小中一貫の取組が紹介されています。

- 学校だよりに2次元バーコードを貼るなど、それくらいのことがあってもいいのでは。
- 子どもに配布しても持って帰る子、帰らない子いろいろある。子どもの発想でやっ
てる方が、面白味があって親も見ようとする。子どもが書いてある新聞なら自分の
子だけでなく他の子のでも見ます。
- 写真が多いと目について、見ようかなと思う。
- 学生はInstagramなどのSNSをしている人が多いので広報の1つの手として
良い案と思う。
- 隣接・一体型にした場合、良くなることも弊害もあるが、でもそこに向かっていく
ときに多くの方々が意見を言って変化を出すことができるチャンスが今あると思う
と、ぜひ色々な意見を出して、それを広報にフィードバックしないといけないと思
う。

○その他

- 小中一貫教育トピックスのシンボルマークとスローガンは児童会と生徒会が集まっ
て作ったもので、すでにこの時点で子どもたちの思いが表れていると思う。
- せっかく小中一貫教育をするなら、いかに全員に手厚くフォローするか、小学校の
頃から中学校に向けてできることたくさんあるのではないかと思う。
- 宇治田原小も田原小もどちらも在籍していたので子どもたちのことがわかる。それ
はメリットであると思う。みんなで育てている感があるので、同じように小中でも
そういう部分というのは効果があると感じるが、もしかするとデメリットとしては
みんなが知っているので外からの刺激が少なくなるのではないかという気もする。
今のここだけを見るのではなくて、広い視野で学校、住民、保護者、教育委員会、
いろんな視点が大事になると思う。
- 色々な子供たちに対するケアが難しかったというのは本当に現実で、私が勤めてい
た時はまだ余裕があったが、(宇治田原町だけではないと思うが)今の先生方は本当
に忙しいと思う。
- 3クラスあった時代と違い、1人の先生が1つの学年のイベントをしなければなら
ないなどいろいろなデメリットが出ている中で、新しい宇治田原型のものがあっても
いいのではと思う。